



加地薬局かわら版

2015 年 1 月



インフルエンザの予防接種

ワクチンの接種はインフルエンザの発症を一定程度抑えることが認められています。また**発症してもワクチンを接種していれば症状が重くならない傾向が見られます**。こうした、肺炎や脳症へとつながる重症化の防止こそがワクチンの最大の効果と言われています。65 歳以上の健常な高齢者については約 45%の発病を阻止し、約 80%の死亡を阻止する効果があったとされています。

インフルエンザの予防接種は年齢などによって定期接種と任意接種に分かれます。定期接種は 65 歳以上の高齢者などが対象で、無料で接種を受けられる自治体もあります。

	対 象	費 用	問い合わせ先
定期接種	65 歳以上 60～64 歳で、心臓、じん臓もしくは呼吸器の機能に障がいのある方 60～64 歳で、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障がいのある方	費用の一部は公費負担 ※自治体によって異なるので確認を	住んでいる地域の保健所
任意接種	0～59 歳全員 60～64 歳の定期接種にあたらない方	原則的に全額自己負担 健康保険は適用されません (健康保険組合によっては、補助制度を設けているところもあります)	近くの医療機関や加入している健康保険組合



Q. 予防接種を受けるならいつ？

A. ワクチン接種による効果が出現するまでに 2 週間程度かかります。また、その効果が十分に持続する期間は約 5 ヶ月間とされています。インフルエンザの流行を考慮して早めに接種するようにしましょう。

Q. ワクチンを打つことでインフルエンザにかかることはある？

A. ありません。インフルエンザワクチンは、不活化ワクチンで、病原性は取り除かれています。

Q. 副反応とは何？重い副反応が出ることもある？

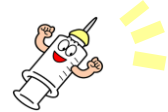
A. ワクチン接種によって免疫をつける以外の反応が出ることを副反応といいます。

注射を打った箇所が赤くなったり、腫れたり、痛くなったりすることです。接種を受けられた方の 10～20%に起こりますが、通常 2～3 日でなくなります。

全身性の反応としては、発熱、頭痛、寒気(悪寒)、だるさ(倦怠感)などが見られます。接種を受けられた方の 5～10%に起こり、こちらも通常 2～3 日でなくなります。

ごくまれにショック症状や発疹、呼吸困難等のアナフィラキシー様症状が出ることがあります。

これらの症状は接種後比較的すぐに起こることが多いです。



Q. ワクチンに卵が使われているって本当？

A. ワクチンの製造過程で鶏卵が使われる為、ごくわずかですが鶏卵由来のタンパク成分が入っています。しかし卵アレルギーがあってもまず問題ないほどの微量です。ただし重篤な卵アレルギーがある場合は医師に相談するようにしましょう。



※厚生労働省ホームページより

